

■ 会長就任のご挨拶 ■

横田 雅弘 (明治大学国際日本学部)

この度、理事の皆様から再任のご依頼を受け、もう一期理事長を務めさせて頂くことになりました。それはたぶん、着任当初に掲げました2つの課題をもう少し押し進めよというご指示であろうと理解し、非力と知りながらもお引き受けした次第です。

2つの課題の第一は、異文化間教育学会の方向性に関するもので、多様な異文化間の関わりに通底する基盤を探ることと、対象別の具体的な実践・研究を共に追求するということがでした。折しも、今年は創立30周年を迎え、震災で延期となりましたシンポジウムをこの秋に開催することとなり、そこでも学会の方向性を将来の展望を含めて打ち出すことになろうかと考えております。また、この30周年のシンポジウムは、関係の深い3つの学会（日本語教育学会、日本国際理解教育学会、日本コミュニティ心理学会）と連携して、これからの多文化社会を担う人材の育成を図るという大きな目的を打ち出しており、異文化間教育学会の立場や方向性を外側からも確認することができるものと期待しております。

第二は、学会の財政基盤を安定させて、それをシステムとして維持継続できる体制を整えることでした。財政的な安定が、会員へのサービス低下や事務局・委員会の負担増を伴うものではなく、サービス向上、負担の軽減と財政の安定化を同時に追求するという困難な課題でしたが、幸い経費節減とシステムの合理化を図ることで一定の成果をみる事ができたと思います。すでに皆様ご存じの通り、本学会の会員管理と情報発信・共有、紀要の編集・出版、大会の運営等を国際文献印刷社との連携によって一元化し、ホームページをベースとした会員同士の情報交換もできるようになりました。システムとしては大きな変化がありましたので、この2年間、事務局や各種委員会の皆様には試行錯誤を重ねて頂くことになりました。多大なるご尽力に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

新しい2年間では、30歳になった学会の新しい門出と方向づけを行っていくと同時に、システム的には安定したマニュアル化を進めて、次の世代にバトンタッチしやすい体制を構築したいと考えています。会員の皆様あつての学会ですので、皆様からのご意見や積極的なご参加を頂いて、有意義な学会活動をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。